

中学生のための作文講座

有限会社エディット

●なぜ、自分は作文が苦手なのか？

苦手なものがあったら、その理由を見つけて対策を考えればいい。簡単なことです。では、あなたはなぜ作文を書くのが苦手なのですか？

もしかすると、「作文を書くのが苦手」なのではなくて、「作文を書くのが嫌だ」と思っているだけかもしれません。だったら、苦手の理由なんて考える必要はありません。

もし本当に苦手だったとしても、それはおそらく、コツがわかっていないだけです。

長く書けない？ 書くことがない？ 大丈夫！

作文なんて、**コツさえわかれば簡単に書けます**。絶対に書けます。「どうして僕は作文が苦手だったんだろう？」と思うくらい、書けるようになります。

ただ、上手に書けることとは話が別です。というか、作文が上手な人はあまりいません。大人のプロのライターだって、下手な人はたくさんいます。プロのうち半分以上が下手だと言っていていいでしょう。ましてや、学校の先生なんか、もっと下手に違いありません（先生が読んでいたらゴメンナサイ）。

だから、あなたも「作文を上手に書こう」なんて思わなくていいのです。とりあえず、「チャチャッと宿題を終わらせたい」という気持ちでいけばOK。その気持ちで楽に作文を書いていけば、そのうち先生顔負けの作文が書けるようになるはずですよ。

そのコツをこれから説明します。

●作文の意味を知る

作文とは、1つのテーマを説明し、自分の考えを書くものです。けっして、2つ以上のテーマを書いてはいけません。また、起こったことを順番に書くだけで終わってもいけません。**1つだけのことについて、自分の考えを書く**。まずは、このことをしっかりと頭に入れておいてください。

●相手のウラを読む

作文を書く前にまずやることは、相手のウラを読むことです。つまり、先生の意図を考えるのです。先生は、作文を書かせることで何を採点しようとしているのか？

答はたぶん、次の3つ。

- (1) 考えの深さ
- (2) 粗筋の確かさ
- (3) 日本語の正しさ

(1)と(2)は同じようなものです。であれば、要するに「**考えが深くて日本語が正しければ、いい作文**」なのです。だからとりあえず、**細かいことは気にしないでいい！**とにかく、何を書くか考えよう。

何を書くか

1 一番印象に残ったことを思い出す

「とは言っても、何を書くかを考えるのがたいへんなんだよ」
そんな声が聞こえてきそうですね。でも、課題は決まっているでしょ？ 「運動会」
とか「1年を振り返って」とか「読書感想文」とか。

だったら、その課題の中から
一番うれしかったこと
一番楽しかったこと
一番驚いたこと
一番悔しかったこと
一番かなしかったこと
一番よく覚えていること
初めてわかったこと

を**2～3個メモ**してください。メモする紙は、ノートくらいの大きさの紙に。文じゃなくて、単語を書いてください。たとえば次のような感じです。

リレー
むかで競走
応援合戦

また、書く位置は、**離れた場所に書く**ようにしましょう。たとえば、「リレー」は紙の一番上、「むかで競走」は真ん中あたり、「応援合戦」は紙の下の方、という感じで。

「一番」のことがなければ、「少し」のことでもOKです。
少しうれしかったこと
少し楽しかったこと
少し驚いたこと
少し悔しかったこと
少しかなしかったこと
少し覚えていること
少しわかったこと

2 メモに理由を書き込む

メモをもっと詳しくしていきましょう。そうすれば、自然に考えが深くなり、作文の粗筋ができてしまうからです。

さっき書いたメモは、次のようなものでしたね。これがあなたの**テーマ案**です。わかりやすいように、■印をつけておきましょう。

- 例) ■リレー
■むかで競走
■応援合戦

これら一つひとつについて、「なぜ印象に残っているか」をメモしてください（印は違う種類で）。たとえば、

- 例) ■リレー
◎転んだ
■むかで競走
◎勝った
■応援合戦
◎盛り上がった

では、新しく書いた「転んだ」「勝った」「盛り上がった」のは**なぜなのか**？ それをメモに書き足してください（例によって、印もつけよう）。

- 例) ■リレー
◎転んだ
○足が動かなかった
■むかで競走
◎勝った
○たくさん練習したから
■応援合戦
◎盛り上がった
○わからない、なんとなく

この時、書く場所や印に注意してください。

「転んだ」は「リレー」の**話の一部**でしかないので、「リレー」より**少し右へ下げて、印も小さく**。

「足が動かなかった」は「転んだ」の**一部**なので、「転んだ」より**少し右へ下げて、印も小さく**。

3 テーマ案を決める

上の■がついているテーマ案のうち、「自分しか体験していないこと」「ほかの人はあまり知らないこと」「ほかの人はあまり考えないようなこと」など、**自分の特徴が表せることをひとつだけ**選んでください。

その際、「先生にウケそうだから」などと優等生ぶっては絶対にいけません。あくまで、「**自分しか知らないことがある**」テーマを選びましょう。

ひとつ選んだら、今までの紙はゴミです。

新しい紙に、選んだものだけを書いてください。たとえば「リレー」なら次のように。前と同じように、紙の上、真ん中、下というように、間を空けておいてください。

例) ■リレー

◎転んだ

○足が動かなかった

次に、**自分に以下の質問**をして、その**答をメモ**に書き足してください。全部の質問に答えられなくても構いません。ただし、みんなが知っているようなことは書かないように。たとえば、運動会の日付や学校名などです。読んでも面白くないからです。

また、同じ答が2回出てきたら、どちらかを消してください。**意味が遠い方を消し、意味が近い方を残す**のがコツです。

- ・いつ
- ・どこで
- ・誰が（誰に）
- ・何を（何の）
- ・どのように

例) ■リレー

- ・~~6月3日~~ ←みんなが知っていることは書かない
- ・~~学校の校庭~~ ←みんなが知っていることは書かない
- ・1年男子選抜リレー

◎転んだ

- ・ゴール直前
- ・僕
- ・倒れるように

○足が動かなかった

- ・~~ゴール直前~~ ←もう上で書いたので要らない
- ・~~僕~~ ←もう上で書いたので要らない
- ・左足が前に出なかった

粗筋を考える

4 メモをもっと詳しく

メモに書かれていることについて、**もっと詳しい説明**を書き足しましょう。前にやったように、2回出てくる内容は、**意味が近い方だけ残して1つ**にします。

例) ■リレー

- ・ 1年男子選抜リレー

僕はアンカー

◎**転んだ**

- ・ ゴール直前

ゴールまであと1歩というところ

- ・ 僕

1位でバトンを受け取った

- ・ 倒れるように

~~後ろの左足が前に出ず、左膝が地面についた~~ ←下より意味が遠い

上体が後ろへのけぞった

○**足が動かなかった**

- ・ 左足が前に出なかった

左膝が地面についた

5 結果を書く

次に「**その結果、どうなったか?**」を書きましょう。

この**結果は重要な**ので、下線など**特別な印**をつけておいてください。

例) ■リレー

- ・ 1年男子選抜リレー

僕はアンカー

◎**転んだ**

- ・ ゴール直前

ゴールまであと1歩というところ

- ・ 僕

1位でバトンを受け取った

- ・ 倒れるように

後ろの左足が前に出ず、左膝が地面についた

上体が後ろへのけぞった

抜かされて2位になった

○**足が動かなかった**

- ・ 左足が前に出なかった

左膝が地面についた

6 「なぜ？」を繰り返す

メモに書かれていることについて、「それはなぜか？」を書きましょう。理由をメモするのです。

もちろん、理由がないものについては書く必要はありません。ただし、さきほど書いた「結果」の理由は必ず書いてください。

例) ■リレー

- ・ 1年男子選抜リレー

僕はアンカー

◎転んだ

- ・ ゴール直前

ゴールまであと1歩というところ

→150m 走って疲れたから

- ・ 僕

1位でバトンを受け取った

- ・ 倒れるように

~~後ろの左足が前に出ず、左膝が地面についた~~

上体が後ろへのけぞった

抜かされて2位になった

→150m 走って疲れたから

○足が動かなかった

- ・ 左足が前に出なかった

左膝が地面についた

→150m 走って疲れたから

「150m 走って疲れたから」は3回出てきたので1つにしたいところですが、どこに入れるのがいいか難しいので、とりあえずこのまま置いて置きましょう。

そしてもう一度、「それはなぜか？」を書いてみよう！ よく考えれば、もっと深い理由があるはずです。ここが作文の大きなヤマです。深く、**深～く考える**。ちょっとウソっぽくてもいいので、**無理やり**ひねり出そう。

例) ■リレー

- ・ 1年男子選抜リレー

僕はアンカー

◎転んだ

- ・ ゴール直前

ゴールまであと1歩というところ

→150m 走って疲れたから

→2位のランナーが速いので、前半から全力で走ったから

- ・ 僕

1位でバトンを受け取った

- ・ 倒れるように

上体が後ろへのけぞった

抜かされて2位になった

→150m 走って疲れたから

→2位のランナーが速いので、前半から全力で走ったから

○足が動かなかった

・左足が前に出なかった

左膝が地面についた

→150m 走って疲れたから

→2位のランナーが速いので、前半から全力で走ったから

さて、ここで問題。3回出てくる

→150m 走って疲れたから

→2位のランナーが速いので、前半から全力で走ったから

という内容は、どの2つを消して、どの1つを残せばいいのでしょうか？ 残すのは、周りの内容と一番「意味」が近いところでは。

この問題を解くためには、印のついた行を見てください。

■リレー

→この段落に書くのは「リレー」の説明

◎転んだ

→この段落に書くのは「転んだ」の説明

○足が動かなかった

→この段落に書くのは「足が動かなかった」の説明

この中で

→150m 走って疲れたから

→2位のランナーが速いので、前半から全力で走ったから

の意味が一番近いのは……

そう、3番目です。だから、3番目だけ残して、上の2つは消してしまいましょう。そうすると、メモは次のようになります。

例) **■リレー**

・1年男子選抜リレー

僕はアンカー

◎転んだ

・ゴール直前

ゴールまであと1歩というところ

・僕

1位でバトンを受け取った

・倒れるように

上体が後ろへのけぞった

抜かされて2位になった

○足が動かなかった

・左足が前に出なかった

左膝が地面についた

→150m 走って疲れたから

→2位のランナーが速いので、前半から全力で走ったから

7 思いや考えをメモする

さあ、いよいよ第二のヤマ。メモに

「その時、自分はどう思ったか？」

「今思うと、どのように考えるか？」

「起こったことについて、どのような意見を持っているか」

などを書き足してみましよう。

また、「ほかの人はどう考えるだろうか？」ということも書いてください。たとえば、「両親ならどう考えるだろうか」「クラスの人はどう考えるだろうか」「大人の人はどう考えるだろうか」などについてです。

書く場所は、「**事実**」と「**考え**」を分けるため、紙の右の方に書きましよう。

例) ■リレー

- ・1年男子選抜リレー

僕はアンカー

選ばれた時はうれしかった

◎転んだ

- ・ゴール直前

ゴールまであと1歩というところ

もう少しだ

クラスの人「勝った」と思ったかも

- ・僕

1位でバトンを受け取った

速く走らなきゃ

- ・倒れるように

上体が後ろへのけぞった

えっ？

抜かされて2位になった

悔しい

クラスの人、がっかりしたかも

両親は「かわいそう」と思っているかも

○足が動かなかった

- ・左足が前に出なかった

左膝が地面についた

→150m 走って疲れたから

→2位のランナーが速いので、前半から全力で走ったから

8 「今の考え」を詳しく書く

おや、「今考えると、どのように思ったか?」「起こったことについて、どのような意見を持っているか」が書かれていませんね。書く場所がないからですか?

それでは、**一番下に大きく書いておきましょう。**

去年までの僕なら、4コーナーくらいで諦めていたかもしれない。
来年こそ、体力をつけてがんばりたい。

もう一度、もっと詳しく!

なぜこのように考えたのですか? どうして去年は諦めて、今年諦めなかったの?

その答が、あなたの作文の結論です。なぜなら、これこそ**誰も知らないあなたの考え**だからです。

たとえば、次のような答になるかもしれませんね。

僕は今まで、サッカークラブで諦めることが多かった。そして、諦めた時はだいたい悪い結果だった。でも、6年生の終わり頃の試合で、「諦めなければならない」ということがわかった。だからきっと、諦めない方が得だと、体が覚えていてくれたのだと思う。

この**結論を読む人にわかりやすく説明**できれば、作文は完成です。

考え方と作業のまとめ

あなたが書く内容はこれで決まりました。簡単でしょ。慣れればもっと楽にできます。だって、これまでやったことは次の4つだけですから。

- (1) 一番**印象に残ったこと**を書く → その**理由**を書く → テーマ案を決める
- (2) 決めたテーマについて**事実を詳しく**書く → **結果**も書く
- (3) 「**なぜ?**」を繰り返して、事実の理由を書く
- (4) **思いや考え**を書く → 「**今の考え**」も詳しく書く

この4つをメモするためには、だいたい何分くらいかかるでしょうか? **15分以内**でできれば、あなたはかなり優秀です。試験でも、こうしたメモを書くことは非常に有効です。いや、むしろ、「**メモを書かないでいい点を取るのは非常に難しい**」ことです。

隣で優等生っぽい人が原稿用紙に書き始めていても、なんら焦ることはありません。向こうは「**粗筋メチャクチャ**」、こっちは「**粗筋ほぼ完璧**」ですから。

粗筋をよりよく変える

9 書く順番をアレンジする

ほぼ完成した粗筋をもとに、原稿用紙にどの順番で書くか？ 少し考えてみましょう。今、あなたが書いた粗筋は、大きく3つに分かれています。最後にメモした「思い・意見」を入れれば4つです。

- A リレーの概要
- B 転んだこと
- C 転んだ理由（足が動かなかった）
- D 思い・意見

この4つをどの順番で書くと、読む人がわかりやすいでしょうか？

A→B→C→D

ですね。つまり、メモの上から順番に書くパターンです。

ただ、メモの右に書いてある「D 思い・意見」はA、B、Cの中に混ぜないでください。事実と思いを混ぜて書くと、話がごちゃごちゃしてしまうからです。あくまで最後にまとめて書きましょう。

このパターンにしたがって作文すると、以下のようになります。

1年男子の選抜リレーで、僕はアンカーに選ばれた。

でも、僕は転んでしまった。転んだのはゴール直前。ゴールまであと一歩というところ。僕はせっかく1位でバトンを受け取ったのに、倒れるように転んだ。後ろへのけぞるように転んでしまったのです。だから、抜かされて2着になった。

倒れた理由は、足が動かなかったから。左足が前に出ず、左膝が地面についてしまった。たぶん、150mも走って疲れたからだと思います。2位のランナーが速かったのも、前半から全力で走ったからです。

僕は、アンカーに選ばれた時はとてもうれしかった。ゴール前でも、「もう少しだ」と思ってがんばった。クラスの人「勝った」と思ったかもしれない。でも、抜かされてとても悔しい。クラスの人「がっかりした」と思います。

去年までの僕なら、4コーナーくらいで諦めていたと思う。僕は今まで、サッカークラブで諦めることが多かった。でも、6年生の終わり頃の試合で、「諦めなければならない」ということがわかった。だからきっと、諦めない方が得だと、体が覚えていてくれたのだと思う。来年こそ、体力をつけてがんばりたい。

どうですか？ メモの通りに書いてだけで、まあまあの出来栄になるでしょう。

ただ、もっと上手に書く方法があります。それは、A・B・C・Dの中の細かい順番を少し変えるのです。特に、BとCの中が重要です。BとCの中を

理由と結果が近くにくるように、起こった順（時間経過順）に並び替えてみてください。

すでに書いたメモにナンバリングするだけでOKです。

例) ■リレー

- ・ 1年男子選抜リレー
僕はアンカー

選ばれた時はうれしかった

◎転んだ

- ②ゴール直前

ゴールまであと1歩というところ

もう少しだ

クラスの人「勝った」と思ったかも

- ①僕

1位でバトンを受け取った

速く走らなきゃ

- ③倒れるように

上体が後ろへのけぞった

えっ？

- ④抜かされて2位になった

悔しい

クラスの人「がっかりしたかも

両親は「かわいそう」と思っているかも

○足が動かなかった

- ③左足が前に出なかった

- ④左膝が地面についた

- ②→150m 走って疲れたから

- ①→2位のランナーが速いので、前半から全力で走ったから

去年までの僕なら、4コーナーくらいで諦めていたかもしれない。

来年こそ、体力をつけてがんばりたい。

僕は今まで、サッカークラブで諦めることが多かった。そして、諦めた時はだいたい悪い結果だった。でも、6年生の終わり頃の試合で、「諦めなければできると」いうことがわかった。だからきっと、諦めない方が得だと、体が覚えていてくれたのだと思う。

順番を直して作文すると、以下のようになります。

1年男子の選抜リレーで、僕はアンカーに選ばれた。

僕は1位でバトンを受け取った。でも、ゴール直前、ゴールまであと一歩というところで転んでしまった。上体が後ろへのけぞってしまったのだ。そのせいで、抜かされて2位になった。

倒れた理由は、足が動かなかったから。2位のランナーが速かったので、前半から全力で走ったのですが、150mも走って疲れたからかもしれません。左足が前に出ず、左膝が地面についてしまった。

僕は、アンカーに選ばれた時はとてもうれしかった。ゴール前でも、「もう少しだ」と思ってがんばった。クラスの人「勝った」と思ったかもしれない。でも、抜かされてとても悔しい。クラスの人「がっかりした」と思います。

去年までの僕なら、4コーナーくらいで諦めていたと思う。僕は今まで、サッカークラブで諦めることが多かった。でも、6年生の終わり頃の試合で、「諦めなければ」ということがわかった。だからきっと、諦めない方が得だと、体が覚えていてくれたのだと思う。来年こそ、体力をつけてがんばりたい。

前よりはずいぶん整理された文章になりました。もちろん、表現方法を直せばもっと上手に書くことはできますが、粗筋としては合格点です。

ただ、この作文を読んでいる人はあまり面白くありません。なぜなら、「びっくり」しないからです。そこで、びっくりしてもらおう方法を教えましょう。

Dの「思い・意見」の中から、ひとつだけを一番前に移動するのです。

たとえば、転ぶ瞬間に「えっ？」と思ったことを一番前に移動してみましょう。また、何の思いかわかりやすいように、その思いに**関係する事実**も、ほんの少しだけ前に移動してください。話の流れに沿って、少し書き方も変えてみましょう（赤字部分）。

「えっ？」

気がついたら、僕は左膝を地面にこすりつけていた。1年男子の選抜リレーのことだ。僕はアンカーに選ばれていた。

スタート時は1位でバトンを受け取った。でも、ゴール直前、ゴールまであと一歩というところで転んでしまった。上体が後ろへのけぞってしまったのだ。そのせいで、抜かされて2位になった。

倒れた理由は、足が動かなかったから。2位のランナーが速かったので、前半から全力で走ったのですが、150mも走って疲れたからかもしれません。左足が前に~~出ず、左膝が地面についてしまった~~出なかった。

僕は、アンカーに選ばれた時はとてもうれしかった。ゴール前でも、「もう少しだ」と思ってがんばった。クラスの人「勝った」と思ったかもしれない。でも、抜かされてとても悔しい。クラスの人「がっかりした」と思います。

去年までの僕なら、4コーナーくらいで諦めていたと思う。僕は今まで、サッカークラブで諦めることが多かった。でも、6年生の終わり頃の試合で、「諦めなければ」ということがわかった。だからきっと、諦めない方が得だと、体が覚えていてくれたのだと思う。来年こそ、体力をつけてがんばりたい。

ほかの「思い・意見」を最初に書いてもうまくいくはずですよ。

文を書く上での注意事項

粗筋ができていれば、文を書くことは恐れることはありません。普段通り書くだけで、今までよりも上手な作文が出来上がるでしょう。

ただ、さらにレベルの高い作文を書きたい人は、まだまだ勉強すべきことがあります。そうした人は別途ご相談ください。その人のレベルに合わせた教材を提供できるように考えてみます。

「とりあえず、今よりマシになればいいや」という人は、下のコツを頭に叩き込んでください。それだけでも、**これまでとは見違えるような文**になるはずです。

●誰でも知っていることは書かない

誰でも知っていることは書いても意味がありません。手が疲れるだけです。

ただ、「1年男子選抜リレー」など、自分が決めたテーマについては、ごく簡単でもいいので書いておきましょう。そうでないと、「何の話？」とわけがわからなくなります。

●一つひとつの文を短くする

文の「。」から「。」まではとにかく短く！一文が長いと、読む人が理解するのに苦しみます。3行以上なんてもってのほか。極端に言えば、短ければ短いほどいい！あなたが書いているその長い文、2つか3つに分けられるではありませんか？

●修飾語は簡単に

修飾語が長いと、話が混乱してしまいます。たとえば、次のような文。理解できますか？

例) 昨日、遠足でいった昭和記念公園でお弁当を食べた時、隣に座った先生の弁当箱の中のみかんにケチャップがかかっている、「まずそう」と思った。

この文はほとんど修飾語です。しかも、複文となっています（修飾語の中に主語と述語があること）。だから次のように、一文を短くして修飾語を簡単にしてください。

例) 昨日は昭和記念公園への遠足。お弁当の時間、僕の隣には先生が座った。そうしたら、先生の弁当箱の中がふと目に入った。するとなんと、みかんにケチャップがかかっている！「まずそう」。思わず私はつぶやいてしまった。

●主語と述語を近くに

主語と述語って知っていますよね？ 知らなければ調べてください。

主語と述語の間が遠い（長い）と、とても読みにくい文になります。ですから、主語と述語はできるだけ近くに置きましょう。

もっとも、一文を短くすれば、自然に主語と述語は近くなります。

●「私は」「ぼくは」を連発しない

作文を書いているのはあなた。そんなことはわかっています。ですから、何度も何度も「私は」「ぼくは」と書くのは止めましょう。小学生のような作文になってしまいますよ。

●文末に変化を

一文の最後（「。」の直前）に同じ言葉が連発するのも避けましょう。特に、「だった」「でした」「ました」「ます」「です」「だ」など。少なくとも、3回に1回は違う言葉で文を終わらしましょう。時々、体言止め（名詞で文を切る）を使うのも有効です。

●メモと多少違ってても気にしない

作文を書いていると、メモと違うことが思い浮かんできます。でも、それば悪いことではありません。むしろいいことです。思い浮かんだことをどんどん書きましょう。そうすれば、自然に原稿用紙の枚数も稼げます。

ただ、あまりにも粗筋と違ってしまうのはダメ。「だいたい粗筋通り、細かくは粗筋より多く」がベストです。

●高速スピードで書く

書くのが速いと、自然に文のリズムがよくなり、読みやすい文章ができあがります。逆に、書くのが遅いと、話があっちに行ったりこっちに来たりします。理想は、頭に思い浮かぶスピードと同じくらいのスピードで手を動かすことです。

●字数が足りない時には

原稿用紙2枚書かなくちゃいけないのに、1枚で終わってしまいそう……。

そんな、字数が足りない時は、「音」「会話」「様子」「表情」「匂い」などを詳しく書けばいいだけ。とにかく長くしたい時の秘策です。

ただ、どうでもいい内容を長くしてしまうと、せっかく考えた粗筋が台無しです。ですから、「作文全体の中で重要なこと」について長くしましょう。

例) 昨日は昭和記念公園への遠足。お弁当の時間、僕の隣には先生が座った。そうしたら、先生の弁当箱の中がふと目に入った。するとなんと、みかんにケチャップがかかっている！ オレンジ色の上に茶色い色。というか、ほとんどがケチャップの茶色で、みかんのオレンジ色は1センチ四方くらいしか見えていない。

——ウソだろ、おい。

匂いも心なしか、濁っているような気がする。

「まずそう」。思わず私はつぶやいてしまった。

(C) 有限会社エディット

〒101-0064 東京都千代田区猿樂町 1-3-5 伊東ビル 4F

TEL 03-5259-5161 URL <http://www.edt.co.jp/edit> E-mail info@edt.co.jp